～岩手県中学生の学力はなぜ低迷しているのか～

平成３０年地域政策研究センター　地域協働研究【ステージⅠ】　採択課題

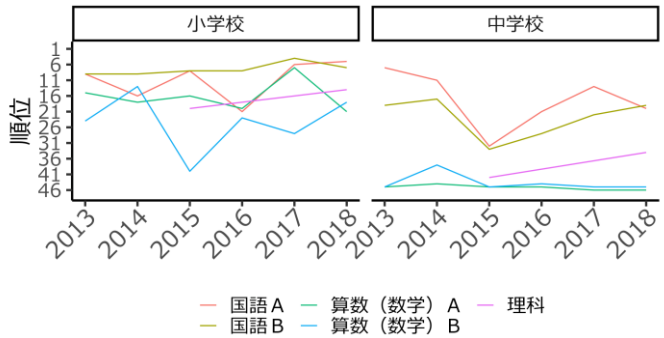
課題名：岩手県の中高生の学力やキャリア形成に関する調査研究
　　―沿岸部と内陸部の格差を生んでいるものは何か―
研究代表者：高等教育推進センター　准教授　渡部芳栄
課題提案者：SoRaStars株式会社　代表取締役　山崎智樹
研究メンバー：　天野哲彦（高等教育推進センター），高瀬和実（高等教育推進センター）
技術キーワード：学力形成，キャリア形成，公教育，私教育，連携

▼研究の背景・目標

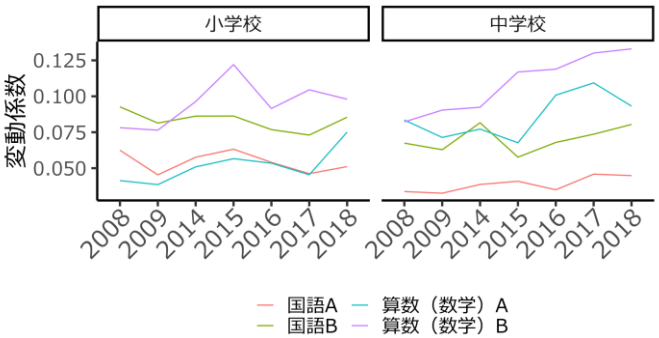
岩手県の大学進学率は，今なお低いままである。なぜ岩手県が他県と比べて学力（キャリア形成力も含む。）が低く，さらに低下し続けているのか，岩手県内でもなぜ市町村（学校）間で格差が生じているのかについて十分な分析ができておらず，結果として地域・学校・個々の生徒に合わせた適切な対策が取られているとは言い難い。本研究の目標は，将来大学教育を受けることになるであろう小中学校の児童生徒に着目し，その学力の形成の状況を明らかにするとともに，学力形成を取り巻く環境について分析・考察することである。

▼研究の結果（全国学力・学習状況調査の分析結果）

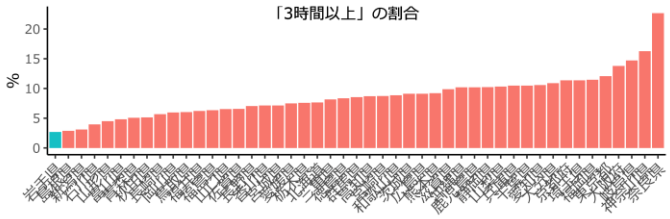
学力の状況（教科別，全国順位の推移）



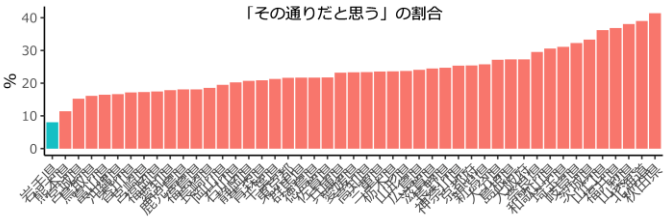
学力の状況（教科別，岩手県内の変動係数の推移）



平日の授業以外の学習時間（中学校3年生・2017年調査）



生徒の熱意（中学校・2017年同調査）



1．全国学力・学習状況調査の結果によれば，小学校児童の成績は特に国語で高く，算数でも10位台である一方，中学校生徒の成績，特に数学の成績が振るわなくなっている。
2．国語・算数（数学）に限定して岩手県内市町村単位で小中学校別に変動係数を算出すると，市町村間の差が特に中学校で相対的に広がってきている（2018年度は小学校でも数値が上がっている教科が多い）。
3．中学校生徒において，平日，授業以外に「3時間以上」自主学習をしている生徒の割合は，全国で最も低い（家で授業の予習をする割合もかなり低い）。また，非通塾率や部活動の参加率は全国で最も高い。
4．中学校の学校質問紙（校長回答）において，「生徒は熱意をもって勉強しているか」に対して「その通りだと思う」と回答した割合や，「学校支援ボランティアの仕組みにより，保護者や地域の人が教育に参加するか」に対して「よく参加してくれる」と回答した割合も全国で最も低い。

▼まとめ・今後の展開

小学校児童の成績は全国的に見て相対的に高い一方で，中学校生徒の，特に数学の成績はかなり低い。また，岩手県内の市町村においても，差が出てきていることも分かった。都道府県間の比較から見れば，岩手県の中学生は学校でも熱意が低く，授業後も多くの子が部活動に勤しんでおり，帰宅後は塾などに通うこともほとんどなく，予習をはじめとした家庭学習をあまりしていない。また，保護者や地域の人が中学校の教育に熱心にかかわっているとも言えず，学校中心の文化が存在しているように見える。

今後は，岩手県の児童生徒の学力・キャリア形成についてさらに分析を進めるとともに，部活動の在り方を含め，地域や外部との連携が課題となっている中学校の学力向上の支援策を検討していく。